

ドイツ滞在記

中嶋 沙蘭






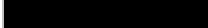
あっという間だったドイツでの日々を、ドイツにおける人種的多様性に重点を置きながら振り返りたいと思います。

ベルリン

長い長いフライトを終えて私たちはベルリンに到着しました。1番に感じたことは、とにかく様々な人がいるということでした。もちろん私には、この人はフランス系である人はオランダ系といった区別はつきませんが、それでも目の前の人々はドイツ人というよりも、様々な外国の人といった感じなのです。

それもそのはずで、ベルリンには190カ国を超える海外出身者が暮らしているからです。また移民を背景とするドイツ人は29%で、中東系が9%、ドイツ以外のヨーロッパが11%、その他が9%となっており、子供や10代における移民を素地とする人口の割合は50%に上るのです。

ベルリンの宗教人口の割合 - 2010

| | | |
|-------------------------|---|-------|
| 無宗教 |  | 60.0% |
| プロテスタント |  | 18.7% |
| カトリック教会 |  | 9.1% |
| ムスリム |  | 8.1% |
| 他のキリスト教 |  | 2.7% |
| 他の宗教 |  | 1.0% |

(ウィキペディア参照)

ベルリンでのホテル宿泊最終日の朝食の後、カメラだけを手に散歩に出かけました。どこまでも続く石畳に朝日が差し込み、両側にはクリーム色やうすピンク色のマンションが並び、ベランダには色とりどりの花が飾られていました。日曜日だったため、カフェや公園で家族連れも多く見られました。私達はベンチに寝転がったり、教会をバックに写真を撮ったりと、朝のベルリンの街を満喫しました。

ヨーロッパの古くからの建築物は重厚で壮大で、思わずしばらく見上げずにはいられません。また一方で、ベルリンには近代的な高層ビルが立ち並ぶとともに、ベルリンの壁・壁の跡・旧国境検問所・戦死者の墓地といった戦争の爪跡も人々の日々の暮らしの中に自然と存在していました。ベルリンは多種多様に異なるもの同士が、そのままの状態、区画されず、かといってミックスされず存在する街でした。



アウクスブルクへ

アウクスブルクへ向かう道中は「あー！もうあと少しでホストファミリーと会うんだ！」と、みんなそわそわし続けていました。私を受け入れてくれたモーザーさん一家は、ゴルフ好きのジェントルなパパ、マラソンが趣味のエレガントなママ、ロンドン・ワシントンでのインターンから帰ってきたばかりのお姉さんザビーネさん、そしてアウクスブルク大学に通う背の高いマティアス君の4人家族でした。パパとマティアス君は黒髪で、ママとザビーネさんはブロンド、家族の間で髪の色が違ったり、目の色も違うことに改めて少し驚きました。日本ではまずありえないと思います。初日の夕食は伝統料理のレストランへ連れて行ってもらいました。優しい家族に受け入れてもらえたことに安心し、すぐに深い眠りにつきました。



アウクスブルク観光

市庁舎

アウクスブルクはB.C.15年、ローマ皇帝アウグストゥスによって創設されました。中世には自由帝国都市として、自治権をもった都市に発展しました。近世においてはフッガー家やヴェルザー家といった商家の影響により、世界で有数の貿易・経済セ

クターに成長しました。1555年にはルター派の信仰を認めるアウクスブルクの宗教和議が結ばれるなど、キリスト教史においても重要な都市です。アウクスブルクではこのような過去の歴史と繁栄を、街中の建物など至る所で感じることが出来ました。



上の写真は何と市役所の中です！本当に美しく、ずっと見ても飽きませんでした。アウクスブルクの市長表敬訪問の際に中に入る機会がありました。また毎日この市役所の前が集合場所だったのですが、前の広場にはカフェが並び、現地の人々がテラス席でおしゃべりを楽しんでいました。

プレラー市民祭り

アウクスブルクでの1番の思い出はやはりプレラー市民祭りです！プレラー市民祭りはアウクスブルクにおけるオクトーバーフェストです。オクトーバーフェストには人々は伝統衣装をまとって出かけます。今回のプレラー市民祭りにもホームステイ受入メンバー達が伝統衣装を着て駆け付けてくれました。



入場無料で、飲食物を買う時や遊具に乗る時にその都度お金を払います。私にとって初めての移動式遊園地でしたが、観覧車やジェットコースター、お化け屋敷など、どれも本格的でとても移動式だとは思えないほど迫力満点でした。また射的などの屋台や食べ物屋等の屋台も数多くありました。しかしこのお祭りの1番の特徴はお祭りの中心が、ビールや食べ物を出す仮設レストラン ビールテント (Bierzelt ビアツェルト) であることです。



会場内ではドイツの民謡や古い曲が吹奏楽隊によって演奏され、テント内は熱気に溢れていました。またこの日は高齢の方々にビールが割引されるとあり、テーブルは高齢の方々に一杯でした。おじいさんもお

ばあさんも1リットルのビールジョッキを片手に、歌を口ずさんだりダンスをする姿は、こちらまで楽しくなり、日本では見られない光景だと思いました。



幼稚園

アウクスブルクでの幼稚園視察は私が最も楽しみにしていたことのひとつでした。なぜなら道端で出会う子供達の可愛さといったらまるで天使のようです。

幼稚園では園長先生が園内を案内して下さいました。日本のように年齢毎にクラス分けされているわけではなく、1つのクラスの中に異なる年齢の園児がいるということでした。また教室も、ままごとのお部屋、積み木のお部屋、お絵かきのお部屋・・・と分かれており、クラス毎に時間を区切って利用するということでした。教室は広々として道具も豊富にあり、子供達は思い思いの時間を過ごしていました。

園長先生が「この幼稚園に在籍する園児の国籍の国旗を壁に貼ってあります」とおっしゃるので見てみると、10か国近くの国旗が貼られていました。またドイツ語を話さなければならない教室と母国語で構わない教室があるとのことでした。なるほど確かに教室を見れば、クルクル巻き毛の子やサラサラのストレート髪の子、黒髪、

ブロンド、青目、黒目、グレー、緑、肌の色も様々でした。「こんなこと日本ではないな」とまた思いました。「キャッキヤ」と声を上げながら教室を走り回る子供達は本当に可愛くて、はにかみながら笑い返してくれる子や飛び跳ねながらはしゃいでくれる子がおり、私達は「ねー見て！手、振ってくれた！笑ってる！もーずっとここにいたい！」という会話を何度も繰り返しました。

そんな中でふと、髪や目、肌の色の違いにこだわっている自分が間違っているのではないかと感じました。私は彼らの多様性を羨ましいという観点から見ていましたが、彼らにすれば、人種も髪色も目の色も、始めから違って、違っていることが当たり前なのだから、そのことに注目する必要などないと理解したのです。



ドイツの人種的多様性は戦後、労働力確保のためにトルコを中心に移民を積極的に受け入れたことに起因します。また、ヒトラーによるユダヤ人や少数民族迫害という負の歴史を繰り返さないために、少数民族や社会的少数派、障がい者や同性愛者を孤立させない国づくりが進められました。彼らにとって大切なのは、そのような違いではなく、考え方の違いなのだと思います。だからこそ彼らはカフェで、レストランで、公園で、熱心に語り合うのだと思います。



ベルリンよりもアウクスブルクでの思い出の方が強く心に残っているのは、現地の人々との交流があったからだと思います。図書館や市場、プレラー市民祭り、幼稚園、プッペンキステ等、視察先の全ての場所で現地の素敵な人々に出会いました。いつも満面の笑顔で迎えてくれ、最後には「あなた方の滞在が素晴らしいものになりますように」という言葉で送り出して頂きました。これらのこともアウクスブルク市職員の方々が綿密にこのプロジェクトを進めて下さったおかげだと思います。

またアウクスブルク市青年使節団員の皆は本当に優しい人ばかりでした。それぞれ忙しい中、プレラー市民祭りに衣装着用で来てくれたり、アウクスブルク大学を案内してくれたり、バーベキューやボウリング大会を企画してくれました。一人一人ともっともっと仲良くなりたかったです。

それからホストのマティアス君には1番にお礼を言わなければなりません。毎日の送り迎えに加え、毎晩色んな所に連れて行ってくれ、色んなことを教えてくれました。笑い転げたり、違いに驚き合ったり、アウクスブルク滞在中本当に良くしてもらいました。



振り返れば、会話の中で意思疎通が上手くいかないこともありました。聞かれている内容が理解できないこともあり、伝えたいことを上手く整理できないこともありました。その結果、ただお互いに顔を見合わせて諦めてしまうこともありました。伝えられないことや伝わらないことに、もどかしさを感じました。やはり言葉の壁は大きいと実感しました。しかし、たとえ私が彼らの言葉を 100%理解出来ず、彼らもまたそうであったとしても、私達はお互いを理解し合おうとしていたし、理解し合っていたと思います。

今回のドイツ滞在中、私達尼崎市青年使節団は、限りあるドイツでの時間を無駄にしまいと、バスの中では窓に顔をつけて車窓を眺め、外では走り回って観光し、全力でドイツを楽しみました。これほど充実した時間は初めてでした。

最後になりましたが、最初から最後まで私たちの面倒を見て下さった、中川団長、吉田副団長、中川さん、成さん、本当にありがとうございました。今回は貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。